

2024年 8月 25日

主 日 礼 拝

①8時半 ②10時半 ③夜7時

司 会

②石井 秀人兄

奏 楽

祈 禱

②小山美枝子姉

賛 美

聖歌481番「ほむべきかな」

～み手をのばして～

使徒信条

聖書朗読

使徒行伝15章6～11節

特別賛美

聖歌651番「主がわたしの手を」ルツ会

メッセージ

「福音の恵みに生きる」

石井 潤 牧師

献 金

聖歌453番「罪深きこの身を」

賛 美

～主の臨在のみ前で～

祝 禱

お知らせ

〔司会者〕

賛 美

～喜びがある～

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします！☆  
《今週のお知らせ》

☆本日も礼拝の恵みを感謝致します！ 午後は聖歌隊の練習が行われます。

★今週の祈り会：①明朝6時。②木曜：朝10時半/夜7時半～。③土曜夜8時。

☆木曜午後2時～、上田市大手の石井兄姉宅にて家庭集会が行われます。

★来週の日曜礼拝では誕生祝福式(司:石井兄/祈:石井師)。午後は聖書の学び会。

☆☆一年に一回聖書を完読できる！ Bible Reading Plan [8/25-9/1] ☆

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
聖書箇所	使徒	10	12	15	17	20	22	24
	8-9	-11	-14	-16	-19	-21	-23	-26
チェック	〇〇	〇〇	〇〇〇	〇〇	〇〇〇	〇〇	〇〇	〇〇〇

## 「福音の恵みに生きる」

～私たちの重荷を主に委ねる～

「それなのにどうして、私たちも、私たちの先祖も負いきれなかった重荷を、彼らに負わせようとするのですか。そんなことをしたら、それこそ、神様がなされたことを訂正するようなものです。私たちは、すべての人が同じ方法で、すなわち、主イエスが一方的に与えてくださった恵みによって救われる、と信じているのではありませんか。」

使徒行伝15章10・11節 [リビングバイブル]

今朝の聖書箇所使徒行伝15章では、第一回エルサレム会議について記されています。この会議でとても大切な内容が議論されました。それは、ユダヤ人たちが父祖アブラハムから受け継いできた、モーセの律法よりも重要ともいわれる「割礼」についての議論が展開されました。ここで、もしもパウロやペテロの主張が受け入れられず、割礼派と言われるユダヤ主義クリスチャンたちの意見が通っていたとしたら、キリスト教はユダヤ教に逆戻りして、福音を信じるだけで救われるというメッセージがストップしてしまったことでしょう。しかし、ペテロの熱心な説明や、パウロやバルナバたちの体験してきた異邦人伝道での事実を通して、聖書が語る中心的な教えである福音のメッセージが最も大切なこととして認識されました。その結果、救いの定義が確認され、キリスト教が世界宗教へと大きく前進した大切な出来事となりました。

ここでペテロが激しい口調で訴えた、“私たちも、私たちの先祖も負いきれなかった重荷”とは、割礼だけでなく、モーセの律法自体を指していますが、それを守れなければ救われられないという考え方です。しかし、主イエス様の十字架の御業を通して、全ての人は信じるだけで救われるという道が開かれました。

「負いきれなかった重荷」をさらに深く掘り下げて受け止めてみたいと思います。私たちは、主イエス様の十字架での贖いを通して救いが与えられていることを信じています。しかし、現実生活の中で、その豊かな恵みによって生かされているでしょうか？この地上での人生にピリオドが打たれた後に、天国に導かれるということは疑いませんが、この現実生活の中で、本当に勝利ある毎日を送ることができているのか？と言われれば、正直に、「出来ていない」と言わざるを得ない現実があります。

マックス・ルケード先生(テキサス州オークヒルズチャーチ牧師)の著書「心の重荷に別れを告げて」の英語の副題には「Releasing the Burden You Were Never Intended to Bear」と書かれていますが、意味としては、「あなたが背負う必要のない重荷からの解放」ということですが、私たちには背負わなくてもいいのに、自分で一生懸命に背負ってしまっている重荷があるということ。私自身もそういう所があると思います。でも、背負わない訳にはいかない。クリスチャンであっても、あれもこれもと頑張っって背負ってしまっている重荷がある。その重荷で両手がふさがって、他者の重荷を取ってあげることができない。そんな時私たちがすべきことは、主のみことばを信頼して、その重荷を主に任せすることなのだと言っています。